2023　年度 授業計画（シラバス）

学　　科	診療放射線技師学科（昼間部）	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	社会学入門	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15　(1)　時間(単位)
対 象 学 年	1年次	学期及び曜時限	前期	教室名	第3校舎 701教室
担 当 教 員	古藤　行敏	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

人と社会の関わりのなかで、医療者ほ、どのように患者さまとその家族、取り巻く社会を理解すればいいのか。出生から亡くなるまでの一連の流れのなかで、医療者とりわけ放射線技師がどのように関わっているのかを学習します。

《成績評価の方法と基準》

①筆記試験　70%
②出席評価点　20%
③平常点（授業へ取組む姿勢）　10%

《使用教材（教科書）及び参考図書》

毎回の授業においては、レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧しますので、特定の教科書は利用しません。復習と試験に際し、希望者にはPDFにて提供します。

《授業外における学習方法》

社会で起きている様々な出来事に興味を持ち新聞やニュースに接してください。医療者として、どのように社会と関わるべきかを考え、講義に取り組む参考にしてください。

《履修に当たっての留意点》

新型コロナウィルス感染防止のため、CO2モニターを用意し、濃度に応じて教室の換気時間を設けます。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	オリエンテーション	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	予習は不要ですが、授業の復習を求めます。質問についてはメールにて随時受け付けます。
		各コマにおける授業予定	新型コロナウィルス感染の一年を振り返りながら、社会と医療の関わりを考えます。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療に関わる仕事・職業	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	予習は不要ですが、授業の復習を求めます。質問についてはメールにて随時受け付けます。
		各コマにおける授業予定	医療は専門職による分業を基本としながらも、多職種の連携も重要となっています。放射線技師は、医療においてどういうポジションにあるのかを学習します。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療をめぐる制度	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	予習は不要ですが、授業の復習を求めます。質問についてはメールにて随時受け付けます。
		各コマにおける授業予定	社会保障と福祉において、医療はどのような位置付けなのか、医療法や診療報酬制度のなかで放射線診療ん位置付けを考える。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	がん診療とターミナルケア	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	予習は不要ですが、授業の復習を求めます。質問についてはメールにて随時受け付けます。
		各コマにおける授業予定	緩和治療について、ホスピスをテーマに、放射線治療の役割を探る。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	病者の視点から	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	予習は不要ですが、授業の復習を求めます。質問についてはメールにて随時受け付けます。
		各コマにおける授業予定	患者さまとの診療におけるコミュニュケーションのあり方について、放射線診断と放射線治療のそれぞれについて考える。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	EBM（Ebidence Based Medicine）と診療ガイドライン	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	予習は不要ですが、授業の復習を求めます。質問についてはメールにて随時受け付けます。
		各コマにおける授業予定	放射線診断領域では医療被曝について、放射線治療では、標準治療と粒子線治療などの先端医療のガイドラインを患者視点で考える。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	保健医療と地域社会	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	予習は不要ですが、授業の復習を求めます。質問についてはメールにて随時受け付けます。
		各コマにおける授業予定	在宅診療と介護について、撮影室から外に出る放射線技師のありかたを考える。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ	レジュメをプレゼンテーションソフトにて供覧	試験にむけての各自は、まとめっるようにしてください。
		各コマにおける授業予定	医療社会学のなかで放射線技師は、どのように患者さまと関わるべきかについて考えます。		